



大里地区を「縫う」水路を映像によって採集、複数のモニターで全てを一度に映写した。普段と異なる視点で土地と向き合い、これまで、そしてこれからの木津川の「邂逅」を生み出す。

来場された方が踏みつけ歩くことによって、足跡が刻まれた地図として浮かび上がる。人々の活動が蓄積されてゆく過程は、街の発展や変化を迫体験するものとなる。



## 豊島舞 Mai Toyoshima

「birdric island」 インスタレーション



木津川のとある緑の島に降り立ったのは「birdric(バードリック)」と呼ばれる鳥たち。幼少期の基地ごっこや探検を意識し、人工と自然の混在、コミュニケーションをテーマに制作。

## 新視角+circle side PLUS(SCP)

「原幻弦 [GEN^3]」 プロジェクションマッピング



木津川市という「まち」が持つ自然環境やイメージを、音楽的映像、映像的音楽によってプロジェクション・マッピング。また鑑賞者の参加によって新たな「木津川」を現出させた。





小杉 俊悟 Shungo Kosugi  
「腰を下ろすということ」彫刻



人により添う彫刻がテーマ。



植松 美早 Misa Uematsu  
「かぜとあそぶ」柔らかい彫刻



布の彫刻の先端の重りは木津川から石を採取し、ワークショップとして、並木通り傍のローズライフに入居の皆さんに彩色していただき、終了後はお返ししてそれぞれの方のお守りにしていただいた。



藤本 梨奈 Rina Fujimoto

「欠片」 インスタレーション



「人間のモノを昇華して本質を捉える力」をコンセプトに、必要最低限の情報で認識してもらえるようなモノの一部だけを魅せる作品を制作。



MOT8

「Come back」 インスタレーション

この作品を見るたびに「帰ってきた」と思えるような、同じまちに住む人たちとの縁、目に見えない変わらない縁=つながりの力を表現した。



向山 潔 (招待作家) Kiyoshi Mukoyama

「FEEL2014 “KIZUGAWA”による一連作品他」  
木の造形



一木に向き合い五感で感じたものを形象にする。始原より観て触れて聴いて味わい香りを刻み込む。  
自然は五感のフィールドワークの源泉、多様なイメージの深化は交歓の場で時空を繋ぎ展開する。

中島 和俊 Kazutoshi Nakajima

「無題」 インスタレーション



近年、目の前で開発による道は開かれ、失うものと得るものを身近に感じてきた。  
それでも前に進むために巨大ショッピングモールの看板を作った。14.5×3.6×1.8(m)



# Melting Pot (長谷川 政弘 横居 佳奈)

「Two Ants」 金属立体



森の樹々の下、種類のちがったアリが偶然出会った。そこから何かが始まり何かが生まれる。  
木津川アート2014のために結成した二人のユニットによる作品。

# 榎木野 淑子 Yoshiko Naragino

「そこに立つ、存在する」陶芸

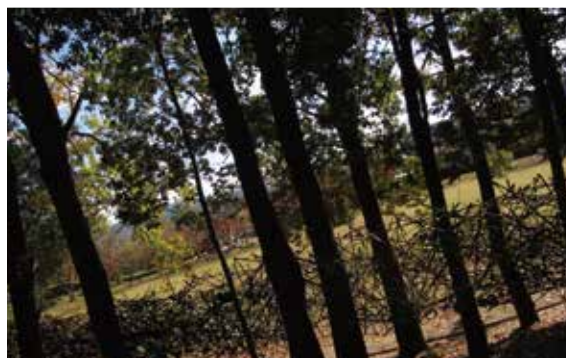


身近にある何気ない場所を、明るく華やかに息づいた景色にしたい。生命力があふれ出るような欲びを感じて欲しい。



小山 和則 Kazunori Koyama

「ゆく川の…」 kizugawa インスタレーション



100年前、現在、100年後、変わることなく木津川は静かに流れていく。  
「一期一会」その一粒一粒の輝きを竹で表現した。

白神 タカヲ Takao Shirakami

「朝の記憶」平面 油彩



カタチと時間の非連続性をテーマにして描いた。カタチのつながりにおいて、脳が認識する連続性の曖昧さ、不安定さの表現である。



内山 泰義 UCHIYAMA Yasuyoshi

「synchronous a-synchronous #3」キネティック インスタレーション



風が吹く。帆が風を拾い、プロペラが回る。



梅原 育子 Ikuko Umehara  
「primitive forest」陶立体

森の中のある光景。息をひそめて、耳を澄まして、見えてくる。大きなモノや小さなモノ。ポコポコ、ぶつくり。そこにも、ここにも。どこかにいるモノたちの集まる。ここが、私の森。



中村 岳 Takeshi Nakamura

「廻及空間(そきゅうくわかん)」インスタレーション



水運の要地として栄えた時代と変容した木津川の歴史。開発された新しいまちにできた企業のホールを舞台に、和船と空間を構想した。



山本 麻世 Asayo Yamamoto

「うかぶ川」(市役所)  
「のうぐゆうぐ」(大里資料館)  
インスタレーション



吹き抜けの空間に木津川の形に作品を漂わせた(市役所ロビー)。用途、使用方法も分からない農具や道具たちと、新しい素材や色の接点を見つけ、新しい景色をつくった(大里資料館)。



宮永 甲太郎 × 精華大学陶芸コース学生有志 MIYANAGA Kotaro

「壺の夢」 インスタレーション



池と壺の出合いが心の種となり、水路を流れ、木津川をくだり、大きな海へと繋がる。そんな百年千年の邂逅を願った。

東山 佳永と津田 翔平

Kae Toyama and Shohei Tsuda

「脈々と」 インスタレーション



水脈として続く川、血脈として続くまち、それがこの土地の文脈となり、絶え間なく流れ続ける。







加藤 史江 Fumie Kato  
「HAPPY RAINBOW～街に願いを」紙と墨の造形



手漉きの紙、墨、竹ひご、自然素材のアーチの揺らめきが重なり合う。まちに幸せをもたらす虹がかかった。

渡邊 あい Ai Watanabe  
「ムスブ」インスタレーション



まちの水路はどこに繋がっているのだろうか。木津川を眺めながら、さまざまな場所へと広がっていくのだという事にわくわくした。





素材：赤い布(50m) 砂利  
時間：38分33秒

近鉄高の原駅を下車すると、小さく流れる渋谷川(しぶたにがわ)がある。これはその川を赤色の長い衣を纏って歩くドキュメント映像である。地を川のようになぞり歩くことでこの町を知りたい。



本津川市の白地図に、緑のドットをマッピングしていくと、そこにある景色が生まれた。日本中の森を歩いている「森の案内人」が作り出した空間。



松尾 謙 Ken Matsuo

「西ノ宮神社参道」音響空間デザイン



参道で拍手を打つ音、祈りの言霊が、小さな鎮守の森に響く。耳を澄ますと、人々の営みの音がドラマのように聞こえては消えていった。音による空間表現。



志村 陽子 Yoko Shimura  
「水の緒」インスタレーション



水の神がお祀りされている西ノ宮神社。その拝殿に、大地に張り巡らされている水脈を表現し、感謝の祈りを捧げた。





城戸 みゆき Miyuki Kido

「泳ぐことさえできるというが」 インスタレーション

日常の些細な出来事、事物から派生する広がりを見視化する。そこに現れてくる新しい風景を見たとき、私たちは現実の水面下に潜む手に負えないほどの可能性を知るのだ。

堀川 すなお Sunao Horikawa

「浮子 no.1~112」 平面



「今まで知っていると思いでいたものは一体何だったのか？」 木津川市旧漁協事業所で見つけた一本の「浮子(うき)」の捉え方を自分の実験で提示し、それを介した他者との関わりを試みる。



谷川 夏樹 Natsuki Tanigawa

「雅楽デコトラ 歌姫街道をゆく。」 インスタレーション、映像



楠本 衣里佳 Erika Kusumoto

「The Room」 日本画



奈良へと続く歌姫街道(府道751号線)。雅楽をイメージした「コンテナくん」ラジコントレーラーが街道とその周辺の集落(曾根山・大里)を巡り、記録映像を発信した。

木津川の美しさ、水路、川の水音、このまちの風土を体感できるひとつの媒体になりたい。



古屋 崇久 Takahisa Furuya

「自走式大型石油動力遺伝子型掘削機」パフォーマンス



林直 Tadashi Hayashi

「ユメカウツツカ」写真



私は地球に遺伝子を擦り付けている。木津川では305名の遺伝子を地球に擦り付けた。何億年か後、また会いましょう。

百年前から残り続けてきた風景と、百年後に残したい風景とは。古いレンズを用いたオリジナルカメラを片手にまちをゆけば、変わらぬ人の温もりがモノクロの世界に溢れる。



小林 正樹 Masaki Kobayashi

「多すぎる幸せ」 インスタレーション



かつて多くの渡し船が行き交っていた木津川に思いを馳せる。地域の人々と外の世界を結んでいた船。人や物資だけでなく夢や幸せも運んでいたことなど…。



ヤマモト+ワダ Yamamoto+Wada

「回」FRP造形

このまちで巡り会った友、寄り添う親と子、夫と妻。大きな額縁の中で、多くの人がその瞬間と空間を切り取った。



木俵 元毅 Genki Kidawara  
「Conflict」 写真・インスタレーション



浅山 美由紀 Miyuki Asayama  
「そして、新たに生まれる」インスタレーション



無意識に行われる葛藤や戦いを、写真とミニチュアの兵士で表現した。  
あらゆるところに散開する彼らの戦場は、鑑賞者からの無意識の攻撃によって日々変化していく。

木々に囲まれた社では、新しい生命がふわふわと浮遊し、融合・増殖する。その自由で不思議な風景を表現した。



井上 隆夫 Takao Inoue

「時を幣(ぬさ)に」 インスタレーション



古来、紙や布の原料であった「からむし」(朝鮮半島語のmosi)を「幣」として捧げることで、「とき」と「もの」と「こと」とを繋げた。一見木製に見える立体作品は、新聞折り込み広告紙と韓紙を素材とした。



伊吹 拓 Taku Ibuki

「終わらない絵」 絵画



深く見詰め内側へ進むこと、絵の持つ力が外側へ広がっていくこと。その間を繋ぐのは言葉に頼らず、「想い」のままの光景を目指した。



山本 茂 Shigeru Yamamoto

「a sign of thanks」写真



端地 美鈴 (招待作家) Misuzu Hashiji

「Remember me」「5:00 evening」アニメーション



木津川アートの各会場を廻られた方々が、ここでまたその風景に出逢い、ここからスタートされた方々が、その景色に懐かしさを感じるよう写真を並べた。思いがけない出会いに感謝して。

消しゴムのカスが形をつくりアニメーションとして動く。まちの温かさを伝える「Remember me」と、会場のNTTビル、大里会館分館が登場する「5:00 evening」に胸がキュン。





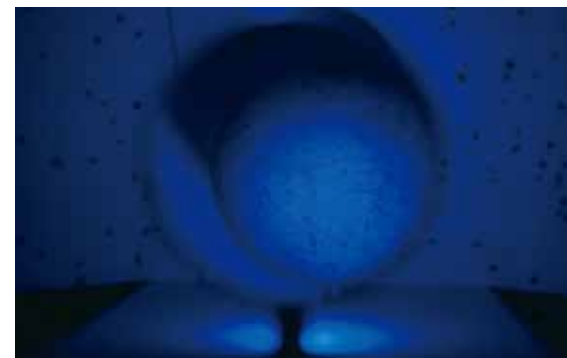
Yann Le Gal

「京都人ポートレート100 by Yann Le Gal」  
インスタレーション

2013年6月から1年間かけて、コンパネにアクリルで京都人のポートレイトを描いた。モデル1人につき約2~3時間で仕上げた作品100枚を、屏風のように繋げて一つの作品とした。

少年少女科学クラブ (招待作家)

「Silent / Laboratorium」 ミクストメディア



天文観測や科学の実験は自身で体験すること。そこに少し曖昧で自分勝手な観測を加えると自身を観測者とした原点(Topocentric)から、とても興味深い発見がある。



岡本 梨江 Rie Okamoto

「家」 インスタレーション



繰り返される日常は、誰かに決められた価値観ですっぽりと覆われた世界なのかもしれない。そうでない別の価値観で成り立つ世界の存在を、考えてみる。

イベント・ワークショップ